

ミニボートフェスティバル 2011 苫小牧大会

2011年6月12日(日)

北海道苫小牧市勇払マリーナ

快適なマリーナ施設で、参加者は大満足 カレイもカジカも大型ばかり

兵庫県豊岡市の気比の浜でミニボートフェスティバルが行われた翌週末の6月12日の日曜日、今度は北海道苫小牧市で、北海道で初めてのミニボートフェスティバルが開催されました。会場となった勇払マリーナには、早朝から18隻、30人のミニボートユーザーが集結、次々とスロープからポートを出していきました。

前日の濃霧がウソのよう。カレイ・カジカ等大型魚が次々と！！

大会の前日、苫小牧港内は濃霧に包まれ、昼過ぎまではとても船を出せないほどの視界の悪さでした。

釣り大会当日もこの濃霧が心配されましたが、幸いにも、天気は曇りながら、霧は非常に薄く、船舶の航行には問題ないほどで、参加者も運営側も一安心。多少の波はあるものの、風速は4m/s前後で、ボート釣りのコンディションとしても問題ない日和となりました。

未明から勇払マリーナの駐車場に到着した参加者たちは、マリーナ施設内へのゲートが開くのも待ちきれず、ボートの準備を進めていました。



勇払マリーナに隣接する駐車場で、5時の受付前に準備万端の参加者の皆さん

会場となった勇払マリーナは、広大な苫小牧港の一角にある本格的なマリーナで、クレーン、浮き桟橋、陸上保管施設、修理工場、クラブハウス、屋外食堂のほか、ノンスリップ処置を施したスロープなど、施設は文句なしのマリーナです。先の東北大震災に伴う津波で、ここも岸壁の上まで海面が上がり、浮き桟橋が1本壊れてしまいましたが、保管艇への被害はほとんどなかったそうです。今回は、マリーナ自らミニボート、カートップボートに対する理解を深めたいと、ミニボートフェスティバルに協力してくれました。

ここでの釣り大会では、カレイと根魚の2部門が設けられ、指定魚部門で、当日の朝、カジカが指定されました。

スロープから下ろされた参加者のボートは、いったん、浮き桟橋に舳われ、午前5時30分、陸上で開会式。

興味深かったのは、参加艇の船体材質。なんと18隻中16隻がインフレーターボートでした。



出航前 スロープから繋がるポンツーンにインフレーターボートが勢揃い



ノンスリップ処理をしたスロープでの上下架の様子

本州以南の地域でのミニボートの大会では、FRP製リジッドボートとインフレーターボートの割合は、ほぼ半々なのがこれまでの傾向でした。ところが北海道では9割近くがインフレーターボートなのです。

これは、フィッシング用品及びボート関連用品を販売する北海道のチェーン店が、インフレーターボートを積極的に販売していることが大きいと思われます。トレーラブルボートが多いことで知られる北海道ですが、意外にも、インフレーターボートのメッカでもありました。

午前6時、スタートフィッシング。参加艇は苫小牧港内の指定された釣り海域に向かいました。

天気は曇り、弱い西寄りの風で、多少ウネリはあるものの、コンディションは悪くはないといったところ。ストップフィッシングの11時近くまで、参加者は、思い思いのポイントで釣りを楽しみました。

検量に持ち込まれたのはカレイとカジカがほとんどでした。カレイは、ソウハチ、タカノハ、イシガレイ、ヌマガレイ、マツカワ、そしてマガレイと 6 種類が釣れましたが、いずれも 40 センチ前後の大型ばかり。結局優勝は 48 センチのイシガレイを釣った女性、吉田征恵さんがさりました。

カレイの部優勝

48センチのイシガレイ



指定魚の部(カジカ)の優勝者は
カレイの部でも3位

根魚の部優勝

45センチのアイナメ

番外のソイは43センチ



根魚部門は、45 センチのアイナメを釣った山本幸則さんが、指定魚部門（カジカ）では、52.5 センチのカジカを釣った関秀徳さんが、それぞれ優勝しました。

この大会を機に JBIA のミニボート安全講習会受講者は

勇払マリーナのビジター利用が可能に！

表彰式の前には、勇払マリーナ・クラブハウス内では、日本舟艇工業会ミニボート安全委員会による「ミニボート安全講習会」が行われました。この講習会では、苫小牧海上保安部からも、出航前点検の重要性をはじめ、小さいボートの利用注意点が説明され、参加者は熱心に聞き入っていました。

気比の浜大会と同じプログラムで行われたこの安全講習会の受講者には、講習会終了後、日本舟艇工業会ミニボート安全委員会による[受講証（2011 年度ミニボート安全講習会.doc にリンク）](#)が発行されました。

この受講証は、マリーナや海の駅がミニボートを受け入れる場合の、管理システムの一助にしてもらうための試み。実際、この勇払マリーナでは、ミニボートユーザー、カートップボートユーザーに対する「ミニボート安全講習会」の内容と、参加したユーザーたちの腕やマナーを見て、この受講証を持ったミニボートユーザーは、ビジターとして安価（3,000 円未満）でスロープ、駐車場、

水道、トイレ、クラブハウスなどの施設利用を認めてくれるようになりました。



左 熱心に受講する参加者

下 発行された安全講習会受講証(名刺サイズ)



このミニボート安全講習会が、ミニボート愛好者の安全利用に役立つよう、今後も愛好者の多い地域で開催していく予定です。

北海道で初めて開催されたミニボートフェスティバルでしたが、フィッシュランドをはじめ地元のミニボート関連企業の方々、そして会場を提供くださった勇払マリーナ、釣り大会を許可してくださった苫小牧港管理組合の協力の下、大成功のうちに終わることができました。どうもありがとうございました。



マリーナの皆さん
快適な釣りの環境
ありがとうございました。
参加者一同

そして、初めてのイベントに参加してくださった北海道のミニボートユーザー、カートップボートユーザーのみなさん、どうもありがとうございました。この場を借りて、お礼申し上げます。

(レポート=日本舟艇工業会ミニボート安全委員 植村敬久)